牧草　一人　先生

略歴

1987年　大阪歯科大学卒業
1990年　牧草歯科医院　開院
1993年　医療法人社団弘成会　開設
（2010年日本歯周病学会認定指導研修施設認定）
歯学博士（大阪歯科大学解剖学講座），日本歯周病学会認定　専門医・指導医，
大阪歯科大学解剖学講座　講師（非常勤），大阪歯科大学　臨床講師，
Japanese Institute of Periodontology & Implantology（JIPI）主宰，
Osseointegration Study Club of Japan　常任理事

研修歴

大阪歯科大学歯周病学講座，京都大学医学部附属病院歯科口腔外科インプラント専門外来

「基礎」と「臨床」がつながる歯周解剖
歯周外科治療を成功に導くためのキーポイント

牧草歯科医院
牧草　一人

わが国における高齢者人口の割合（全人口に占める65歳以上人口が占める割合）は2021年現在で29.1%であり，これは21%の超高齢社会の基準をはるかに突破している。歯科においては，8020達成者の割合が50%を超えるまでにもなっている。これらのデータは，近年の医療の進歩や歯科臨床における予防歯科が一定の成果を出した結果を示している。いっぽうで，わが国における歯周ポケット保有者の割合は，年齢の増加につれて高い傾向を示し，45歳以上では過半数を占めるようになる。さらに全年齢層の約4割の人において歯肉出血が認められるとのことである（厚生労働省e-ヘルスネットより引用）。

このようなデータを考察すると，皮肉なことにも長寿社会において歯の保有状況が良好になってきた近年では，中高年期患者において歯周病に罹患するリスクを有する歯が増えたというジレンマが生まれてきたともいえる。ギネスブックにも歯周病は人類史上最も感染者数の多い感染症であると記載があり，将来における歯周病専門医の役割は決して少なくない。歯周治療において，歯周基本治療の果たす役割は重要であり，歯周病の病因因子とリスクファクターを排除し歯周組織の炎症を改善，そしてその後の歯周治療の効果を高め，成功に導くための基本的な原因除去治療である。加えて，中等度から重度の歯周炎においては，歯周基本治療後にも深い歯周ポケットが残存することも多く，その場合には失われた歯周組織の修復や再生を目的とした歯周外科治療が必要となる。加えて，審美障害や適切な修復・補綴物の装着を妨げるような解剖学的形態異常の改善には，歯周形成外科が必要なことも多く，歯周外科手術は歯周病専門医の業務として極めて重要な診療分野である。しかしながら，外科処置には患者への説明が行われ同意が得られていること，術者が十分な技術訓練を受けて必要な医学知識と外科手技を習得していること，歯科衛生士などのコスタッフが周術期管理に精通していることなどなど，超えねばならないハードルが多く存在する。その中でも「解剖学的知識」の習得は極めて重要であり，歯学教育の根幹となる部分である。歯学部生に「一番苦手な科目は何か？」と問うと，最も多い回答は間違いなく解剖学である。その一方で，卒後の歯科医師に「今，もう一度聞けるならどの科目を選ぶか？」と問うと，これまた解剖学だそうだ。臨床を経験しない者にとっての基礎医学はただの「暗記もの」でしかない。やがて臨床に出てふと気がつく。今から思えば解剖学的知識は臨床において非常に重要な情報だったと。「解剖学的知識」とはいわば「地図」であり，「臨床的基本手技」とは「技術」である。もしもこれらが不確かであれば，まるで「不正確な海図を片手に，不慣れなクルーを伴って航海に出るようなこと」ではないだろうか。本講演では歯周外科に必要な「歯周組織の解剖学的知識」と実際の歯周外科で必要な「臨床的基本手技」の両者を関連づけながら，歯周外科治療を成功に導くためのキーポイントについて解説してみたい。